

「熊本県央・荒玉の戦争遺産 加害と被害」

8/30版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

1 はじめに ～戦後79年の諸相～

- 戦後世代としての「私の視点」～近現代考古学との出会い～
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員、空襲・戦跡九州ネットワーク事務局長
- 平和憲法を活かす熊本県民の会、菊池恵楓園ボランティアガイド、一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

2 熊本の戦争遺跡・遺産

(1) 戦争遺跡とは

- 全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「319」件 2021年10月2日現在
- 熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」
- くまもとの戦争遺産 内の一覧表には「249件」を精査し記載
- 熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件



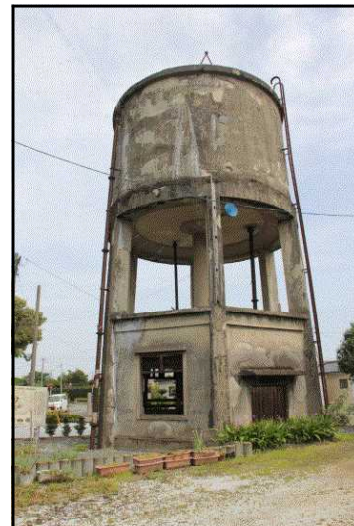
1945年8月10日米軍機市街地空襲。AIと証言でカラー化

(2) 西南戦争期の指定等 ※熊本県による悉皆調査は未実施

西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明德官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花崗山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水俣市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町）の計14件

(3) 太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に国登録文化財となる予定である。また、東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所変電所は、荒尾市が所蔵・管理している。



菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」菊池飛行場

(4) 熊本の「戦争の歴史」をたどる

～熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」～

※高谷和生著『くまもとの戦争遺産 戦後75年平和を祈って』熊日出版 第42回熊日出版文化賞大賞・第34回地方出版文化賞最優秀賞の受賞 ※県による悉皆調査は「未実施」

①軍都熊本市の軍事施設

※平和継承リーフレット『軍都熊本の残像』

～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

②九州で三番目に多い陸海軍飛行場

～正規飛行場、本土決戦に向けての特攻秘匿飛行場の実相～

③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産。製品は小倉造兵廠の弾丸等へ、曾根製造所の毒ガス弾へ

④三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場

～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

⑤本土決戦に向けての天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と兵站基地としての人吉地区の飛行場・地下工場・地下壕群

⑤-1

- 錦町立「人吉海軍航空基地資料館」 2018（平成30年）年8月1日開館
～山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム

- 意見書提示（同年9月）回答なし。新たな「靖国史観」への危惧
- 戦争や戦争遺跡を美化したり、集客目的に利用する「戦跡の観光地化・商品化」「民間事業者への委託」「歴史事実の歪曲・矮小化」ではないか。展示説明・解説は果たして十分か
- 集客のための「海軍九三式中等練習機」実寸レプリカ、「何を学ぶ」のか
- 何でもありの「地域づくり」、文化財活用の誤用、行政がからむ「プチ遊就館」
- 県民「学ぶ旅」観光のあり方、「戦争遺跡の学び（ダークツーリズム）」の本質とは
- 十五年戦争につながった「満州戦蹟保存運動」の反省から学ぶ！

⑤-2

- 八代海での陸軍特攻艇「マルレ艇基地」の実態把握、佐敷国民学校への逗留

⑥県内各地に残る空襲・戦災「被害の歴史」

⑦朝鮮人や中国人、連合軍「俘虜」労働者、「敵機捕獲搭乗員」への「加害の歴史」

⑦-1 通称「田浦熊本捕虜収容所」。使役企業は「東海電極株式会社田浦工場」で、「福岡俘虜収容所第六派遣所」設置

- 捕虜収容所は、三回移転し、最後は工場から南橋を渡り海岸際に位置する。現地には建物基礎・井戸等が現存
- 内訳は、102名（米2・英97・NZ3名）、死亡3名
- 日本国は、「戦時中の労働力不足」を補うため、約37,000人を、全国130箇所で使用。死者は約3,500人
- 「俘虜待遇条約（ジュネーブ条約）」準用での「違反行為」
- 敗戦時での暴動抑止のため大牟田「福岡俘虜第二十五分所」へ6月30日に移動。使役企業は、電気化学工業株式会社大牟田工場



田浦捕虜収容所での1944年12月、日本軍によるプロパガンダ「クリスマスイベント」

3 荒玉・熊本県央の戦争遺産 被害と加害の実相

(1) 陸軍玉名（大浜）飛行場 ※平和継承リーフレット『大浜飛行場』・『大浜飛行場 II』

①沿革と概要

- 大刀洗陸軍飛行学校玉名教育隊、練習基地・錬成基地

②空襲の被害

- 1945年5月10日（B29が二機）・13日（艦載機）の空襲

③空襲の加害

- 1945年8月10日 米陸軍第5航空軍第507戦闘機隊第465中隊所属のP47「アール・グラハム」少尉機の玉名市永徳寺への撃墜と死体凌辱

④特攻隊

- 九五式中間練習機による特攻「第九十・九十一振武隊」

⑤何を伝えるか

- 戦争の実相を凝縮、有明中学校、大浜小学校、玉名町小学校での地域・平和学習



大浜飛行場のユングマン練習機

(2) 東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

※平和継承リーフレット『荒尾二造』二種

①沿革と概要

- 隣接する大牟田との石炭コンビナート、黄色火薬等の生産

②学徒生による勤労働員

- 旧玉名中学校、高瀬高等女学校（現北陵高校）他

③残された戦争の遺構・遺物

- 変電所跡をはじめ、約30基の遺構等大
- 忠海製造所（毒ガス生産工場）関連施設と曾根製造所（毒ガス弾充填工場）関連施設等との関係性

④戦後の接収と荒尾の心象風景

- 接収状況の解明、施設を競売し平和に変容し今にいたる

⑤何を伝えるか

- 市民グループ運営による「荒尾二造 平和資料館」



荒尾二造の戦争遺構・変電所跡

(3) 健軍飛行場、三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場

※平和継承リーフレット『健軍飛行場』

①沿革と概要

- 「カミク」第九製作所として、三菱重工業熊本航空機製作所が、1945年4月29日「陸軍四式重爆撃機」進空式
- 健軍（熊本）飛行場は、当初三菱製作機の試験飛行場としたが、その後大刀洗陸軍飛行学校熊本教育隊、防空部隊が配備され、5月24日義烈空挺隊出撃基地となる

②県下の一次疎開工場・二次疎開工場

- 45年4月学校工場等への「一次疎開」



旧玉中への三菱製図班の疎開

□その後、6月頃から「二次疎開工場（地下工場）へ

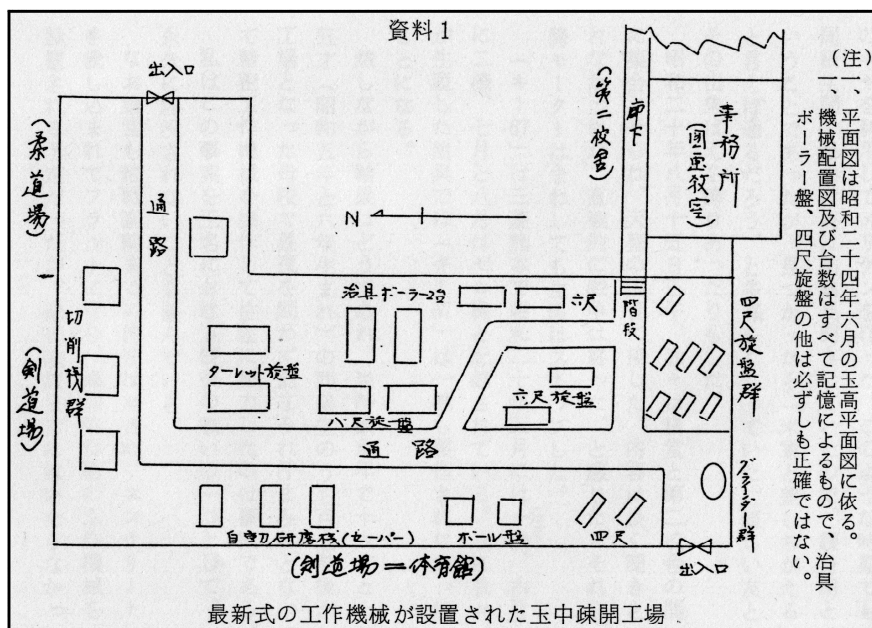
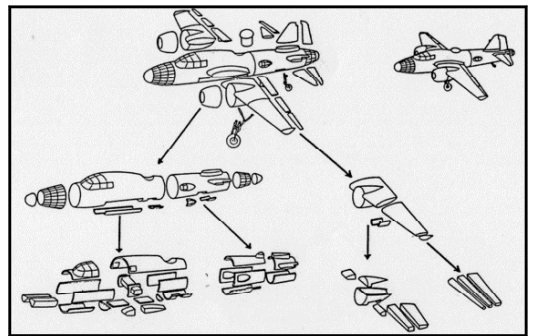
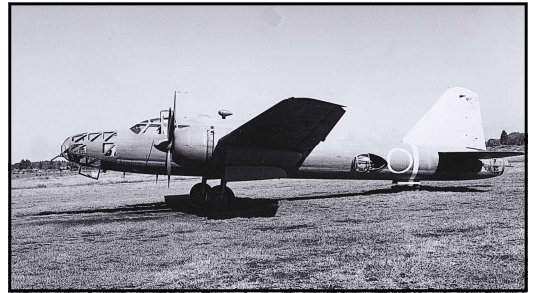
③旧制玉中への疎開と玉中工場

□熊本航空機製作所工機工場機械群製図班、三菱玉中工場治具製造班、島津製作所九州疎開工場

表1 第九製作所第一次の分散・疎開状況（1945年6月30日現在）

1. 本工場	直接作業場ニシテ未ダ本工場ニ残置シアルモノ次ノ如シ			
	工場関係	面積(坪)	作業内容	備考
1. 本工場	整備部	1,000	機体整備	未疎開
	組立部	6,000	組立	一部疎開
	鍛金工	7,000	鍛造	"
	機械工	1,400	機械	未疎開
	機械工場(実習工場)	2,000	治具	一部疎開
	計	20,000		
	合			
2. 熊本地区	五済	1,030	胴体中部	組立
	洋本西網一二	424	準備	骨切
	熊本	1,009	準備	部門
	水州	372	準備	作部
	計	552	準備	体全
	計	156	準備	部
	計	120	準備	部
	計	312	準備	部
	計	159	準備	部
	計	1,860	準備	部
	計	300	準備	部
	計	400	準備	部
3. 大津地区	大津	160	発動機関係	疎開済
	大津	492	"	"
	大津	448	"	"
4. 宇土地区	松宇	210	胴体全般	"
	橋宇	152	機部	"
	宇土	144	"	疎開未済
5. 御船地区	御船	224	胴体前部	組立
	御船	404	胴体前部	組立
	御船	285	胴体前部	組立
6. 隈庄地区	牛島	97	胴体後部	縦通
	海島	250	胴体後部	縦通
	弘島	82	胴体後部	縦通
7. 菊池地区	城北	140	全般	機部
	城北	44	全般	機部
	城北	150	全般	機部
	城北	454	全般	機部
	城北	60	全般	機部
	城北	324	全般	機部
	城北	350	全般	機部
8. 木葉地区	植玉	150	全準備	鍛機
	木葉	455	全準備	鍛機
	木葉	270	全準備	鍛機
合	計	875		

第九製作所 現用総面積 33,498坪(本工場20,000坪を含む)



- 第九製作所第一次疎開工場等の一覧
- 陸軍四式重爆撃機「飛龍」の敗戦時写真
- 熊本航空機製作所工機工場機械群製図班員が当時使用した製図機
- 飛龍生産の模式図
- 玉中工場配置図

(5) 西部軍第三事件、「敵機捕獲搭乗員」処刑

※平和継承リーフレット『松橋空襲 昭和二十年の空襲と墜落米軍機』

- 内地での捕虜飛行士は、「一般捕虜」ではなく、戦犯容疑「敵機捕獲搭乗員」
- 総数568人で、無事本国への生還者は303人
- 捕虜は熊本憲兵隊本部で取り調べを受けたのち、福岡西部軍司令部へ列車で連行される。
- 途中、荒木・筑紫駅付近で米軍機による銃撃「西鉄筑紫野駅銃撃事件」(1945年8月8日11時30分)を受け、連行中の憲兵1名が死亡する。幽閉されたのち15日に油山で処刑された。
- 1945年5月頃以降に西部軍司令部に収容された飛行士40～41人は、「日本人市民に対する無差別爆撃の罪」の理由で6月20日(第一事件)、8月10日(第二事件)、8月15日(第三事件)に3回にわたって処刑された。これらの事件を通称「西部軍事件」という。
- 搭乗員斬首事件裁判 (GHQ報告書第420号 再審記録第288号)
- 裁判の期間：1948年10月11日～12月29日

5 まとめ 「平和のバトン 未来へ」

～来年は「戦後80年」、「昭和100年」 歴史へ移行する分かれ目～

(1) くまもと戦跡ネット「出前平和講座」

- 有明中学校、大浜小学校、豊水小学校、大野小学校 等
- 玉名町小学校、菊水小・中学校、合志楓の森小学校、熊本学園大付属中学校等

(2) 戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」

- 第一弾、9月上旬より貸出開始
- ちいちゃんセット、一つの花セット、軍国少年少女セット、勤労働員セット、金属代用品セット
- くまもと戦跡ネットHPを参照ください!

(3) 身近で、自分事の平和活動

- 一般社団法人「くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」活動
- 街角サロン「馬空」での平和のコラボ企画「子どもが読んだ戦時絵本 ～平和の紙芝居づくり～」
- 玉名ルーテル学童クラブでの平和の学び「平和の紙風船づくり」



県内初の戦時資料貸出キット

(4) まとめ

- ウクライナ戦争、ガザ戦闘と重なる「太平洋戦争」と「熊本の空襲」の姿
特別軍事作戦＝満州事変、SNS＝プロパガンダリーフレット、捕虜＝戦時捕獲搭乗員 他

□史実に込められた「歴史の重み」、昭和の歴史の教訓化、「新しい戦前」

□あらためて「加害と被害」の諸相を、県内事例から調べる! 証言を重ねる!

□一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として語り継ぐ

- ①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用
- ②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」
- ③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」
- ④広島「被爆体験伝承者」と長崎「平和案内人」による「非当事者による語り」の展開

□地域の特性を基にした熊本の「血」と「智」

□核廃絶への「理論と感性!」、平和継承のための「戦争実相と感性!」
私たちひとり一人の、自分ごとの「新たな平和運動・活動」を



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生

Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/